

[illegible]

全孔隙率についてみると、各区とも有機質資材の混合割合が増すにつれて大きくなった。

表3 各種床土と定植後の生育(54.5.24)

区名	項目	1		2		3		4		計	
		葉数 (枚)	つる長 (cm)	葉数 (枚)	つる長 (cm)	葉数 (枚)	つる長 (cm)	葉数 (枚)	つる長 (cm)	葉数 (枚)	つる長 (cm)
1	基 土 100%	6.2	58.5	6.4	62.5	4.2	39.4	3.2	31.8	20.0	192.2
2	鶏ふんたい肥 25%	5.4	59.7	4.8	49.0	5.2	56.4	5.4	58.7	20.8	223.8
3	" 50%	4.8	52.4	6.4	63.6	5.8	57.9	4.4	43.8	21.4	217.7
4	もみから 25%	5.6	57.2	3.6	39.4	3.8	36.9	4.4	36.2	17.4	169.7
5	" 50%	7.4	47.4	5.0	34.9	5.2	42.2	6.8	46.5	24.4	171.0
6	圧砕もみから 25%	5.5	46.8	6.8	54.5	4.3	32.5	7.0	52.1	23.6	185.9
7	" 50%	6.6	50.8	6.6	49.7	6.6	44.7	6.6	52.1	26.4	197.3
8	クンタン 25%	7.4	57.3	6.8	56.2	6.6	53.6	8.0	62.5	28.8	229.6
9	" 50%	10.0	73.0	4.6	34.9	6.6	48.4	7.0	49.5	28.2	205.8
10	ハイフミン 25%	6.5	53.3	8.5	56.3	6.8	60.8	9.0	72.8	30.8	243.2
11	" 50%	7.8	60.4	7.0	58.5	7.8	56.7	6.2	47.3	28.8	222.9
12	テンポロン 25%	8.2	60.0	4.8	32.8	5.6	43.9	8.8	66.2	27.4	202.9
13	" 50%	6.6	60.7	5.4	50.8	7.0	77.0	6.4	47.0	25.4	235.5
14	スーパーコン 25%	7.0	69.8	8.4	78.2	6.2	55.9	5.0	50.3	26.6	254.2
15	" 50%	7.2	63.6	6.8	61.3	7.8	49.1	7.0	60.7	28.8	234.7
16	みちのく鶏ふん 25%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	" 50%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2 苗の生育状況

定植時の生育は、圧砕もみから25%区、ハイフミン25%区、テンポロン25%区の3区が他区に比べてまさる傾向であった。スーパーコン50%区は最も劣っており、みちのく鶏ふん区は、つぎ木後移植の翌日にはアンモニアガスの発生によって全株が枯死した。

3 定植後の生育状況

定植1か月後の生育は、定植時の生育に比べ各区の間に大きな差は認められなかったが、圧砕もみから50%区、クンタン区、ハイフミン区、テンポロン区、スーパーコン区が他区に比べてまさる傾向がみられた。

4 ま と め

本試験の結果から次のことが明らかにされた。

1) 圧砕もみから、ハイフミン、テンポロンは、理化学性と生育からみて問題なく使用でき、資材の混入割合は容積で25%程度が適当と思われる。

2) 鶏ふんを素材とした資材は、一般にE.C.が高い傾向があるため混入割合には十分注意して使用する。また、使用時にアンモニア臭のあるものは使用しない。

3) クンタンは、アルカリ性が強い(pH 8~9位)そのまま使うと鉄欠乏を起こす恐れがある。したがって一昼夜流水処理を行い使用する。

4) もみからを使うときは、しいなが発芽し、苗の生育を阻害する。したがって、あらかじめ基土と混合してメチルブロマイドで処理する必要がある。